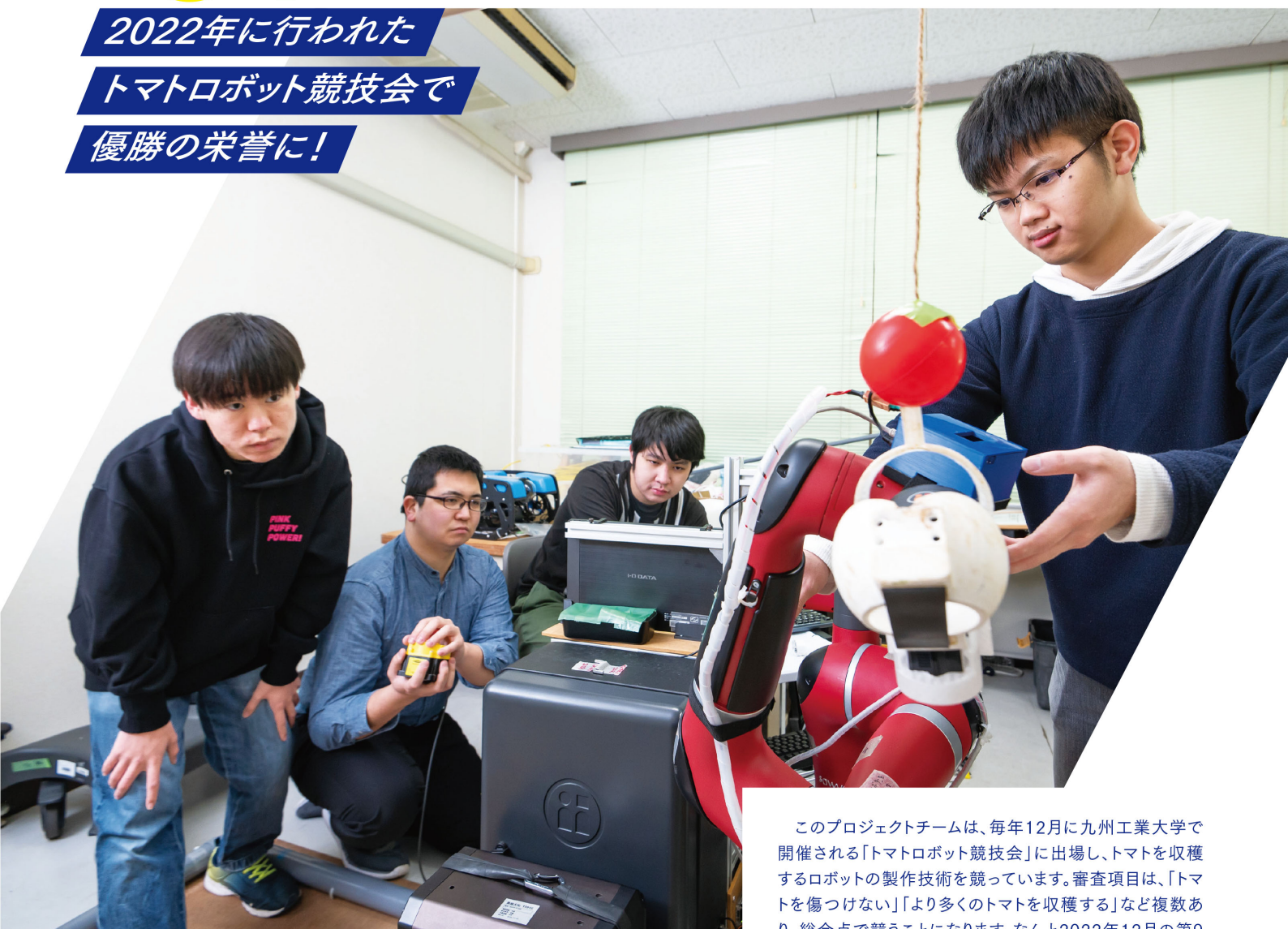


PROJECT 04 がんばらんば

2022年に行われた
トマトロボット競技会で
優勝の栄誉に！



ロボットのさらなる改良を進めて目指す大会連覇。



機体に取り付けてある画面を見ながら、ロボットを動かすためのプログラムを入力する。マニュアルが作成してあるため、チームのメンバー全員がプログラムを入力することができる。

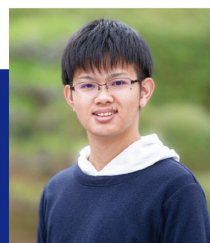


ロボットの機体は分解して大会会場へ持ち込む。このため現地で機体を組み立て、各種コードを配線することになる(ロボットの頭脳である小コンピュータ「Jetson」に配線中)。

このプロジェクトチームは、毎年12月に九州工業大学で開催される「トマトロボット競技会」に出場し、トマトを収穫するロボットの製作技術を競っています。審査項目は、「トマトを傷つけない」「より多くのトマトを収穫する」など複数あり、総合点で競うことになります。なんと2022年12月の第9回大会では、チーム初となる優勝の栄誉に輝きました。

ただ改善点はまだあり、2023年はトマトを傷つけることなく収穫できるようにハンド部分の性能向上を図り、また、「トマトを落とさずバケットに収める」「フィールドを破壊しない」などについての改良も進めていく予定です。ロボットはアーム以外すべて自作していますが、先輩が前年に製作したロボットを引き継いで機体やプログラムを改良し、ぜひ2連覇を果たしたいと思っています。

私は、このプロジェクトでチームワークの大切さを学びました。ロボット製作や競技では複数のメンバーと協力してテーマに取り組む必要があります。2022年は本番直前にアームが動かなくなる不具合が発生したもののアイデアを出し合って、乗り切ることができました。こうした経験と講義で培ったプログラム能力をもとに、将来はチームで行うソフトウェア開発に携わることができればいいと考えています。



leader

知能情報コース4年
久保 聖也
鎮西学院高等学校(長崎県)出身

需要の高い情報分野の仕事に就くことを視野に入れ進学を考えていたが、高校時代、AIに興味を持ったことから「AIシステムプログラム」が新設された本学に入学。3年次にロボット開発を行う佐藤研究室へ配属が決まり、このプロジェクトチームに加わった。